

ぶつせつむりようじゆきようしせいげ  
佛説無量壽經四誓偈

我建超世願	がごんちようせがん	必至無上道	ひつしむじようどう
斯願不滿足	しがんふまんぞく	誓不成正覺	せいふじようじやうがく
我於無量劫	がおむりようこウ	不為大施主	ふいだいせしゆ
普濟諸貧苦	ふさいしよびんぐ	誓不成正覺	せいふじようじやうがく
我至成佛道	がしじようぶつどう	名聲超十方	みやうしやうちやうじつほう
究竟靡所聞	くきやうみしよもん	誓不成正覺	せいふじようじやうがく
離欲深正念	りよくじんしやうねん	淨慧修梵行	じやうえしゆほんぎやう
志求無上道	しぐむじようどう	為諸天人師	いしよてんにんし

〔訳〕

私（法蔵菩薩）は、世にこゑすぐれた四十八の願を建てました。かならずこの上ない覺りの世界に至りましょう。この願いが成就しないというならば、誓つて覺りを得ることはありません。

私はこの先いつまでも、大いに恵み施す主となつて、貧しく苦に苛まれている多くの者を、一人のこらず救えないというならば、誓つて覺りを得ることはありません。

私が覺りの世界を完成したならば、私の名前が十方の世界にまで響きわたることでしょう。すみずみまで響きわたらないうならば、誓つて覺りを得ることはありません。

欲望を離れること、正しく精神統一すること、淨らかな智慧をきわめること、これらの清淨な修行につとめることで、心からこの上ない覺りを求めて、多くの天界の神々や人々の導師となりましょう。

佛は、はかり知れない力で大いなる光を放ち、果てしない

如佛無礙智 にょぶつむげち	願慧悉成滿 がんねしつじょうまん	供養一切佛 くよういつさいぶつ	常於大衆中 じょうおだいしゅうじゅう	為衆開法蔵 いしゅうかいほうぞう	日月戢重暉 にちがつしゅうじゅうき	功祚成滿足 くそじょうまんぞく	閉塞諸惡道 へいそくしよあくどう	開彼智慧眼 かいひちえげん	消除三垢冥 しょうじよさんくみよう	神力演大光 じんりきえんだいこう
通達靡不照 つうだつみふしょう	得為三界雄 とくいさんがいおう	具足衆徳本 ぐそくしゅとくほん	説法師子吼 せつほうししく	広施功德宝 こうせくどくほう	天光隱不現 てんこうおんぶげん	威曜朗十方 いようろうじつぽう	通達善趣門 つうだつぜんじゆもん	滅此昏盲闇 めつしこんもうあん	広濟衆厄難 こうさいしゆやくなん	普照無際土 ふしょうむさいど

国土までくまなく照らし、三つの垢（貪り・怒り・愚かさ）の闇を取り除き、多くの厄難に苦しむものを救い、彼らの智慧の眼を開いて、その暗い闇をなくし、多くの悪しき世界を閉じ、善き世界に導き、福德を完全に満たして、その威嚴ある輝きを十方にまでいきわたらせませす。

そのため太陽と月の輝きはなくなり、天界の光さえも隠れて消えてしまふでしよう。

衆生のために佛法の蔵を開いて、福德の宝をことごとく施し、いつも多くの人々の中で、獅子のような気高い声で法をお説きになります。

すべての佛に供養し、多くの福德を備え、誓願と智慧をすべて満たし、三界（欲界・色界・無色界）で最も猛々しい存在になられました。

佛の障りのない智慧は、どこまでもいきわたり照らしつくない所はございません。どうか私の福德の力によって、このような最も勝れた尊者（佛）と等しくなりますように。

この誓いが達成したならば、三千大千世界は感じて揺れ動くにちがいません。虚空中にいる多くの天界の神々は、美しくみごとな華々を雨のようにふらせるでありますように。

願が我ん功く慧え力りき 等とう此さい最し勝しょう尊そん  
斯し願が若んに尅や果つ 大だい千せん応おう感かん動どう  
虚こ空くう諸しよ天てん人にん 当とう雨う珍ちん妙みょう華け

読み下しと傍訳

我われ超ちよう世せの願がんを建たつ。  
「私私(法蔵菩薩)は、世にこえすぐれた四十八の願を建てました。

必かなず無む上じよう道どうに至いたらん。  
「かならずこの上ない覺りの世界に至りましょう。

この願がん満まん足ぞくせずんば、  
「この願がんが成就じゆうしないというならば、

誓ちかつて正しやう覺がくを成じやうぜじ。  
「誓ちかつて覺りを得ることはありません。

我

法蔵菩薩のこと。阿彌陀佛の修行時代の名前。もと国王であったが、世自在王佛のもとで出家して法蔵菩薩と名のつた。四十八の誓いをたてて修行し、ついに覺りを得て阿彌陀佛となった。

超世願

法蔵菩薩が自己の覺りと衆生救済のために建てた四十八の誓願のこと。覺りを得るためには誓願を建てなければならず、それを大きく総願と別願に分類する。総願はすべての修行者が共通にたてる誓い。別願は特定の修行者によって建てられる誓いである。この四十八願は法蔵菩薩が建てた別願である。

我れ無量劫において、大施主となりて、  
「私はこの先いつまででも、  
「大いに施み施す主となって、

普く諸もろの貧苦を濟わずんば、誓つて正覚を成ぜじ。  
「實しく善に習はれてゐる多くの者を、一人のこらず救えないというならば、  
「誓つて覺りを得ることはありません。

我れ佛道を成ずるに至らば、名声、十方に超えん。  
「私が覺りの世界を完成したならば、  
「私の名前が十方の世界にまで響きわたることでしょう。

究竟して聞こゆる所なくんば、誓つて正覚を成ぜじ。  
「すみずみまで響きわたらないというならば、  
「誓つて覺りを得ることはありません。

離欲と深正念と、淨慧との修梵行をもつて、  
「欲望を離れること、正しく精神統一すること、「淨らかな智慧をきわめること、これらの清淨な修行につとめることで、

無上道を志求して、諸もろの天人師とならん。  
「心からこの上ない覺りを求めて、  
「多くの天界の神々や人々の導師となりましょう。

神力大光を演べ、普く無際の上を照らし、  
「佛は、はかり知れない力で大いなる光を放ち、「果てしない国土までくまなく照らし、

三垢の冥を消除して、広く衆もろの厄難を濟い、  
「三つの垢（貪り・怒り・愚かさ）の闇を取り除き、「多くの厄難に苦しむものを救い、

かの智慧の眼を開きて、この昏盲の闇を滅し、  
「彼らの智慧の眼を開いて、  
「その暗い闇をなくし、

諸もろの悪道を閉塞して、善趣の門に通達せしめ、  
「多くの悪しき世界を閉じ、  
「善き世界に導き、

功祚、満足することを成じて、威曜十方に朗らかなり。  
「福徳を完全に満たして、  
「その威厳ある輝きを十方にまでいきわたらせます。

日月重暉を駈め、天光も隠れて現ぜず。  
「そのため太陽と月の輝きはなくなり、「天界の光さえも隠れて消えてしまうでしょう。

衆の為に法蔵を開きて、広く功徳の宝を施し、  
「衆生のために佛法の蔵を開いて、  
「福徳の宝をことごとく施し、

常に大衆の中において、説法師子吼したまう。  
「いつも多くの人々の中で、  
「獅子のような気高い声で法をお説きになります。

一切いっさいの佛ほとけを供養くようし、衆もろもろの徳本とくほんを具足ぐそくし、願がん慧ね悉ことごとく成満じょうまんして、  
「すべての佛に供養し、  
「多くの福徳を備え、」誓願と智慧をすべて満たし、

三界さんがいの雄おとなることを得えたまえり。  
「三界（欲界・色界・無色界）で最もすぐれた存在になりました。

佛ほとけの無礙智むげちのごときは、通達つうだつして照てらしたまわずといふことなし。  
「佛の障りのない智慧は、  
「どこまでもいきわたり照らしつくさない所はございません。

願ねがわくは我わが功く慧えの力ちから、この最勝尊さいしょうそんに等ひとしからん。  
「どうか私の福徳の力によつて、  
「このような最も勝れた尊者（佛）と等しくなりますように。

この願がんもし尅果こつかせば、大千だいせんまさに感動かんどうすべし。  
「この誓いが達成したならば、  
「三千大千世界は感じて揺れ動くにちがいありません。

虚空こくうの諸もろもろの天人てんにん、まさに珍妙ちんみょうの華はなを雨ふらすべし。  
「虚空中にいる多くの天界の神々は、  
「美しくみごとな華々を雨のようにふらせるでありますよう。

### 三界

輪廻して苦を受ける三つの迷いの世界のこと。欲界（欲望に満ちた世界）と色界（欲望はないが、物質が残る世界）と無色界（物質を超越した精神世界）に分けられる。

### 大千

大千世界、三千大千世界のこと。

## 解説

浄土宗では「四誓偈」と呼び習わしています。法蔵菩薩が世自在王佛の御前で四十八の願を誓った後、これらをまとめ、再び四つの誓いを述べているのです。内容は全体を三つに分類するとわかりやすいでしょう。

第一段は「我建超世願」から「為諸天人師」まで。ここに「誓不成正覚」が三度くりかえされています。すなわち法蔵菩薩の三つの誓いです。真宗ではここをとって「三誓偈・重誓偈」と呼んでいます。

第二段は、「神力演大光」から「通達靡不照」まで。浄土宗では法蔵菩薩による佛（世自在王佛と考えてもよいでしょう）への賛辞と受けとめ、真宗では法蔵菩薩自身による誓いの内容そのものと受けとめます。よって訓読文は浄土宗が「（佛は）説法師子吼したまう」、「（佛は）三界の雄となることを得たまえり」となり、真宗では「（私は）説法師子吼せん」、「（私は）三界の雄となることを得ん」というように大きく異なります。なおサンスクリット原本を見ますと、どちらの理解でも可能のようです。第三段は、「願我功慧力」から最後まで。「願」ではじまるので、もちろん法蔵菩薩の誓いになります。第二段で法蔵菩薩は佛への賛辞を述べ、ここでは私法蔵菩薩もそのような賛辞に値する立派な佛になりたいものですと願っています。つまりこれが第四番目の誓いになっているのです。こうして浄土宗では「四誓偈」と呼称するのです。この位置においてさまざまな經典を拝読いたしますが、この四誓偈がもっとも多く読まれています。日常勤行の中では、善導大師のお示しになられた五種正行の第一、読誦正行に配当されます。

古代インド人の宇宙観で、須弥山を中心とする世界を一世界とし、これが千あつまって小千世界とし、小千世界が千あつまって中千世界とし、中千世界が千あつまって大千世界とする。須弥山世界を太陽系としたら、三千大千世界は銀河系に相当する。なお佛は一つの大千世界に一人だけ出現する。